

クリスマスの たこ

トマスはわくわくしていました。このちょっとした仕事を毎日わすれずにするようになってから、もう1週間がたちます。トマスの表には、ピカピカの星が七つ、はられていきました。星が七つついているということは、トマスがずっとほしがっていたたこをお父さんが買ってくれるということなのです！

お父さんとトマスは、上着を着てぼうしをかぶり、おもちゃ屋さんへたこを買いに行きました。たこは明るい黄色で、茶色と白のワシの絵がかかれています。





「お父さん、もう たこを あげても いい?」

トーマスは 早く たこを あげたくて、うずうずして
います。

お父さんが 笑って 言いました。「もちろんだとも!
フェアガーデン公園へ 行こうか。そこなら 広い
グランドが あるから、たこを あげるには もって
こいだ。」

きのうは 雪が 少し ふっていましたが、今日は
そら 明るく、公園の 向こう側に 立っている
はだかの 木の 枝は、風で ゆさゆさと ゆれて
いました。

お父さんは たこを 持ち、トーマスには
たこ糸を 渡しました。そして トーマスに、
はなれて 立つようにと 言いました。「わたしが
たこを 放したら、風に 向かって 走るんだ。そして、
たこが 高く あがるまで、走り続けるんだぞ。」

お父さんが たこを 放しました。トーマスは

むちゅうで 走り続けました。たこは トーマスの
後ろで なびいていましたが、風が ヒューっと
ふいてくると、一気に 空高く まい上りました。

トーマスは、走るのを やめました。「見て、
お父さん！ たこが 飛んでる！」

二人は、たこが あっちに 向いたり こっちに
む 向いたりしながら、ひらひらと まうのを ながめて
いました。時たま 強い 風が ふいてきて、たこを
もっと 高く ふきあげました。たこが ふき飛ば
されないように、トーマスは 糸巻きを しっかり
にぎりしめていました。





けれども、まさに そのことが ^お起こったのです！

強い 風 ^{かぜ}が ふいてきて、たこは もっともっと ^{たか}高く
ふきあげられていきました！ そして ついに、
風 ^{かぜ}は トーマスの 手 ^てからも、糸巻きを ぐいっと
うばい取ったのです！ お父さんは とび上がって
たこ糸 ^{いと}を つかもうとしましたが、たこは 風 ^{かぜ}で
空高く まいあげられてしまって、トーマスも
お父さんも、もう 糸巻き ^{いとま}には 手 ^てが とどきません。
その日、トーマスは 悲しそうに お父さんと
家 ^{いえ}に 帰 ^{かえ}って 行きました。

よる その夜、ねる 準備をしながら トーマスが
い 言いました。「お父さん、だれかが ぼくの たこを
み 見つけると いいな。」

「ずっと たこを ほしがっていた 子が
み 見つけられるように 祈ることも できるぞ。」と
とう お父さんが 言いました。

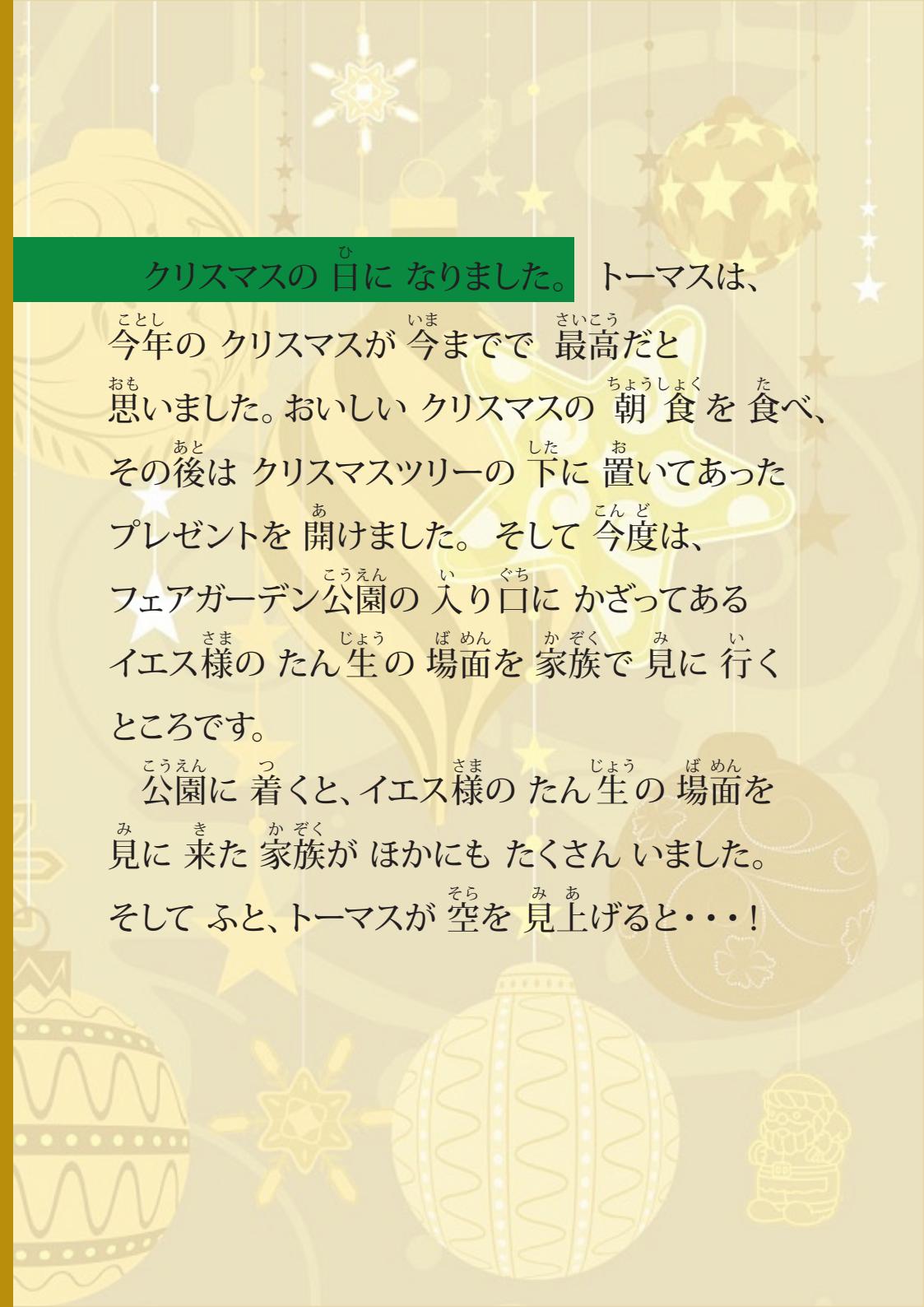
「特別な クリスマスプレゼントが 必要な 子が
み 見つけると いいね!」 トーマスも うなずいて
い 言いました。

さま 「イエス様。ぼくは あの たこが 大好きでした。
だけど、もう それは ありません。どうか、
ひつよう こ クリスマスプレゼントに たこが 必要な 子が それを
み 見つけられるように 助けてください。ずっと たこを
ほしがっていた 子が 見つけられますように。

アーメン。」と、トーマスは 祈りました。

きぶん トーマスは、気分が すっきりしました。イエス様が
いの こた 祈りに 答えてくださると わかっていたからです。





クリスマスのひになりました。トーマスは、

今年のクリスマスが今まで最高だと
思いました。おいしいクリスマスの朝食を食べ、
その後はクリスマツリーの下に置いてあった
プレゼントを開けました。そして今度は、
フェアガーデン公園の入り口にかざってある
イエス様のたん生の場面を家族で見に行く
ところです。

公園に着くと、イエス様のたん生の場面を
見に来た家族がほかにもたくさんいました。
そしてふと、トーマスが空を見上げると…！

「お父さん！ お母さん！ 見て！ ぼくの
たこだよ！」

「ホントだわい！」と、お父さんも 言いました。
「見て、男の子がぼくのたこをあげてるよ。」
お父さんとお母さんとトーマスとお姉ちゃんの
ケイトは、男の子がトーマスのたこをあげるのを
ながめていました。男の子はとても 幸せそうです。
そして、そのそばに立っている男の子のお父さんも、
とても うれしそうでした。

「お父さん、ぼく、クリスマスプレゼントにたこを
すごく ほしがっていた男の子のところにイエス様が
それを 飛ばしてくださったんだと思 うよ。」

「きっと、その通りだね。」お父さんも
うなずきました。

「そう なるように 祈ってあげたなんて、
やさしいのね。」お母さんも 言いました。





「メリークリスマス。」 イエス様の たん生の
場面を見に行くとちゅうで 男の子と お父さんの
そばを通りかかると、トーマスは二人に 言いました。
「メリークリスマス！」 男の子と お父さんも、
うれしそうに 言いました。

トーマスは にっこり ほほえみました。やっぱり、
最高の クリスマスです。

お終わり

文:アリーヤ・スミス、サイモン・ピーターソンによる話の編集

絵:アルビ デザイン:クリスティア・コープランド

出版:マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2011年、ファミリーインターナショナル

“The Christmas Kite”--Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/0-5/2011/12/5/the-christmas-kite.html>